

5530 ^{げーぶる} 逆古中山道ママチャリ旅：新茶屋を通過 092

.....

新茶屋は地名だが、食事処もあるだろう。どう楽しむか。馬籠宿へは、
自動車道、旧道、どんな選択をするか。ご覧のような案内板があったので、作戦タイム。
下記、画像記録を残すにも、こだわりがある。この場合、相棒のママチャリが主役。
フットワークよく、この位置まで戻ってパチリ。
その後、田んぼと山々の光景。車なら通り過ぎるところだが、パチリ。



～～山はみどり 野に花 人にはころ～～



新茶屋
この辺りの地名を「新茶屋」といふ。江戸のころ宿場と宿場の間にある茶屋を「立場茶屋」といふた。かつての茶屋は、ここから岐阜県側に数百メートルほど入った場所にあったが、江戸の終わりにころに現在地に移った。そのためここを新茶屋と呼ぶようになった。わらび餅がこの茶屋の名物だった。

芭蕉の句碑
松尾芭蕉が門人の越智越人を伴って、信州糠栴山の月見と善光寺参りを兼ねて中山道を旅したのは貞享五年（一六八八）のことであった。その旅を「更級紀行」として世に出した。
送られつ送りつ果は木曾の籠
この碑が建てられたのは天保一三年（一八四二）のことである。このころ岐阜県美濃地方には芭蕉を祖とする「美濃派」の俳人が多くいて、これらの人々によって芭蕉の供養として建てられたものである。